

石川県の庚申塔

庚申塔調査資料

金沢市 滝本やすし

2013/06/18

石川県の庚申塔

滝本 やすし

十干(甲乙丙丁…)と十二支(子丑寅卯…)との組み合わせにより、六十日に一度巡りくる庚(かのえ)申(さる)の日の夜に、体の中にいる三尸(さんし)という虫が人体を抜け出して、天帝にその人の罪を報告に行く。その報告をもとにしてその人の寿命が決められるので、人々は庚申の夜は寝ずに過ごし、三尸が体内より抜け出すのを防ぐ。もとは中国の道教の延命呪法の一つであったが、平安時代に日本に入り貴族の娯楽となった。その後仏教と結びついて、室町時代以降全国に民間信仰として広まった。

庚申信仰は「講」によって行なわれた。この講は集落の何件かの仲間できており、庚申の夜には宿(当番)の家に集まり青面金剛像の掛軸を掛け各種の供え物をして、読経・会食等が行なわれた。講の様式は地域・講ごとに違いがみられる。また青面金剛の絵像は木版のものや手描きのものであり像容も様々である。北陸地方にみられる絵像の多くは関東や関西方面の庚申堂で出されたものと思われるが、地元の絵師によって描かれた絵像もみられる。現在では講を続けて行なっている集落は少なくなっており、内容も簡略化されているようである。

青面金剛は陀羅尼集経・第九の大青面金剛呪法に説かれている仏像で、三眼四手で二鬼を踏みつけ、二童子と四薬叉を従えた忿怒像である。江戸時代中期頃から青面金剛が庚申の主尊となった。庚申信仰における青面金剛の多くは一面六手像であり、二手像、四手像、八手像などもみられる。またこれらには経軌にみられない日月輪、猿、鶏等を伴うものが多い。石造物では童子や夜叉が省略されているものが多い。

庚申塔は、清水長輝著『庚申塔の研究』(昭和三十四年・大日洞)に次のように記述されている。

① 庚申信仰によって建てたことを銘文にしるしてあるもの。

② 青面金剛の像か文字をきざんだもの。(江戸時代では庚申信仰に無関係な青面金剛の信仰はなかったと思われるから)

③ 寒目塞耳塞口の三猿か、その一部があつて他の造塔目的をしるさないもの。(三猿の形態は庚申信仰によって生まれたと思われるから)

④ 三猿形態以外の猿でも、塔の全体が他の庚申塔と類型的なものや、日月などをともなつて、おおむね庚申信仰のために建てられたことが想像されるもの。(施主は庚申講でも他の目的で造塔したものと、庚申塔や庚申祠への奉納物、自然石など伝承的なものは除外する。)

石川県内の庚申塔の多くは能登地方と金沢市に集中している。奥能登方面では「庚申」・「庚申塔」などの文字塔がほとんどで、青面金剛像は一体を確認するのみである。また中能登方面では青面金剛像が多いのだが「青面金剛」の文字塔もみられる。金沢市では三猿像が多く、小松市と加賀市に青面金剛の丸彫像がみられる。ほとんどのものが、幕末から明治にかけての造塔ではないかと考えられる。

庚申講が調査時現在でも続けられているのは、能登町の旧能都町及び旧柳田村(庚申塔はない)のごく限られた地区と、金沢市五郎島町(庚申塔はない)のみのものである。講に用いられる掛軸は青面金剛像や「庚申」の書などであるが、石造物に比べ时期的に古いものがみられる。とくに能登町国光や金沢市栗崎町曹洞宗水月院(五郎島講)の青面金剛一面四手(?)像などは、宝永く享保年間あたりまでさかのぼるのではないだろうか。また金沢市東山一丁目高野山真言宗医王院(観音院)の青面金剛一面六手像の掛軸は、市の文化財に指定されている。また金沢市寺町五丁目西方寺の木造青面金剛一面六手像は、石川県内で唯一確認されるもので、野町三丁目にあつた庚申堂に祀られていたものと考えられる。

珠洲市三崎町森腰雁の池の庚申塔

集落はずれの「雁の池」と呼ばれる溜め池畔の、小高い林の中に建てられている。自然石の中央に「奉請庚申塔」と刻まれている。溜め池が完成したときに建てられたと伝えられる。高さ六〇cm。



珠洲市若山町宗末岡田家の庚申塔

岡田家の裏山の湯治場に建てられている。角柱型に加工された前面を掘りくぼめ、中央に「庚申塚」と刻まれている。左側面に「明治十四年／巳ノ八月吉日建之」と刻まれている。右側面にも銘文があるが、判読困難である。本体高四七cm。元旦に花を供えお参りしているとのことである。



珠洲市若山町洲巻の庚申塔

庚申塔は九社前家の庭にあったのだが、場所を移動されておりなかなか所在がつかめなかった。二〇一〇年六月に池田紀子氏が、高野家の裏山で確認された。自然石の前面を少し彫りく



ぼめ「庚申之塚」と刻まれている。高さ約七〇cm。洲巻の下衾家には、青面金剛一面六手像の庚申掛軸が残されている。

珠洲市宝立町春日野法住寺参道の庚申塔

高野山真言宗法住寺参道の弘法大師袈裟掛松之跡に、地藏と並んで建てられている。正面中央に「ウーン・南無青面金剛塔」と刻まれ、右に「天保戊戌年」左には「六月十六日」の銘が入っている。



珠洲市宝立町春日野法住寺門前の庚申塔

法住寺門前両脇に石塔や石仏がいくつか並べられている。庚申塔は笠付角柱型で、正面に「ウーン・青面金剛塔」と「施主／黒■市右衛門」が刻まれている。右側面に「文政十丁亥」、左側面に「十一月十日」の銘が入っている。



能登町秋吉山下家の庚申塔

山下家の裏山に建てられている。赤戸室石製の角柱型で、正面に「ウーン・庚申青面金剛」と刻まれており、「天保十四年九月十日」の銘が入っている。本体高五九cm。



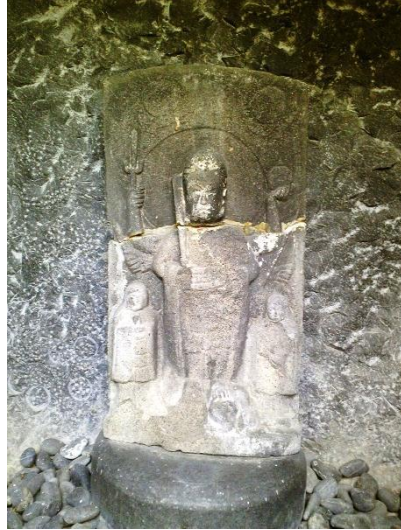
能登町時長十八束共同墓地の庚申塔

集落はずれの共同墓地の入り口に、他の石塔などと共に建てられている。角柱型で、正面に「庚申」と刻まれている。右側面に「宇出津／新町／飯川氏」と刻まれており、左側面には「文政十一年／子正月」の銘が入っている。高さ約四〇cm。



能登町一ノ瀬川端家の青面金剛像

川端家の中庭の石龕内に、奥能登では唯一の青面金剛像が納められている。向かって左辺(右手)には上から順に矛・剣・矢を、向かって右辺(左手)には輪宝・人身・弓を持つ。これは最も一般的にみられる青面金剛一面六手像である。角型に近い光背型で、上部に日月輪が刻まれている。頭部に輪後光が彫られ、脚下に一体の邪鬼を踏みつけ、両脇には二体の童子を従えている。猿や鶏は彫られていない。本体高四一cm。



能登町宮犬の庚申塔

『内浦町史』に掲載されている。大乗妙典塔、光明真言塔と並んで建てられているのだが所在がつかめない。角柱型で、「ウーン・奉待庚申供養塔」と刻まれ、「文化十一年／正月廿八日」の銘が入っているとのことである。

能登町柿生神道の庚申塔

旧道脇の茂みの中に建てられている。自然石の前面に大きく「㊦・庚申」と刻まれている。その両脇に御幣を待った二匹の狼が、向かい合って浅く彫られている。「ユ」の種子は弥勒菩薩を示すもののようにであるが、その関連がわからない。近くの院内や本にも同様の庚申塔があるが、庚申塔以外の石造物で「ユ」の種子を刻むものを見かけない。高さ九〇cm。神道では日形組および石淵組と称する二組の庚申講が現在も続けられている。日形組の講の掛軸は青面金剛一面六手像で、嘉永四年(一八五二)に地元の絵師によって描かれたことが箱書きされている。



神道日形組庚申講の掛軸

能登町瑞穂町の庚申塔

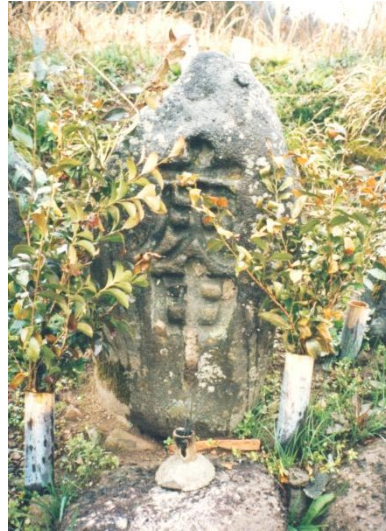
瑞穂集落はずれの路傍に建てられている。安山岩製の自然石で、前面に大きく「庚申」と刻まれ、右下に「今三」左下に「弥作」の銘がある。高さ九二cm。

能登町瑞穂西安寺最安寺参道の庚申塔

曹洞宗最安寺の参道に建てられている。安山岩製の自然石で、大きく「庚申」と刻まれ、右側面に「かい五子とし／マチ／弥作」の銘がある。高さ七九cm。西安寺では講の時に、青面金剛一面六手像と「庚申」文字の二幅の掛軸が掛けられている。



西安寺庚申講の祭壇



能登町瑞穂院内大峰神社の庚申塔

大峰神社の境内に建てられている。安山岩製の自然石の前面を平らに加工し、中央に「ユ・庚申」と大きく刻まれている。苔にびっしりと覆われており、銘文が読めないのだが、『能都町史』には右側面に「かい七寅とし／八月功德日／マチ弥作」の銘文が報告されている。高さ九四cm。

能登町瑞穂柱山地蔵堂の庚申塔

集落入り口の地藏堂前に建てられている。安山岩製の自然石で、前面を平らに加工し、上部に「㊦」を浮き彫りにして、その下に「庚申」と刻んでいる。その右側に「細工人／町弥作」と、左側には「安政■年／願生／子中」の銘がある。高さ八七cm。

能登町本木亀原の庚申塔

平川家前の小堂に納められている。安山岩製の自然石の前面を平らに加工し、中央に大きく「㊦・庚申」と刻まれ、両脇には御幣を待った猿が向かい合って彫られている。「㊦」の



下には蓮座も彫られており、右下に「願主／次郎介」左下には「作者マチ弥作」の銘が入っている。朱による彩色の跡がわずかに残っている。高さ九四cm。

能登町高内島の庚申塔

高内島にも庚申塔があつたが、現存していない。「庚申」の二文字のみが刻まれており、「ユ」の種子は入っていない。高さ一〇四cm。

輪島市門前町俊兼の三猿像

集落はずれの路傍の小堂内に納められている。自然石を彫りくぼめた内に、三猿らしき像を「浮き彫りにしている。「らしき」と書いたのは像容がはっきりとしないからである。僧形像のようにも見えるのだが…。向かって左から順に両手で耳を・片手で目を・片手で口を塞いでいるようだ。また像の下には蓮座が彫られている。地元では「歯痛地藏」と言い伝えられている。高さ三八cm。



輪島市門前町日野尾の庚申塔

日野尾集落中ほどの三叉路の、地藏堂の向かいに建てられている。自然石に「庚申」と刻まれている。



輪島市門前町門前の庚申塔

集落中心の商店街の中ほど、鬼屋川を背にして建てられている。自然石に「庚申」と刻まれている。高さ一〇四cm。



輪島市門前町鬼屋の庚申塔

鬼屋集落入り口、鬼屋川に向かつて建てられている。自然石の前面を平らに加工し、大きく「庚申塔」と刻まれている。立派な台石に乗せられており、裏面に「明治十七申七月／願主／坂尻八右工門」の銘が刻まれている。庚申講は十数年ほど前に途絶えてしまった。県内最大の庚申文字塔であつたが、平成十九年の能登半島地震によって倒壊破損した。



輪島市門前町道下の庚申塔

旧道の脇に他の石造物とともに建てられている。自然石に「ウーシ庚申塔」と刻まれている。高さ八一cm。能都町の庚申塔は幕末のものであるが、門前町の庚申塔は明治に入ってからのものである。



穴水町川島町の庚申石祠

階段を少し上った小高い所に、庚申石祠が建てられている。正面に日月の窓が開けられている。内部には奉納物などはなさそうである。



七尾市小島町長齡寺の庚申塔

曹洞宗長齡寺の参道脇に置かれている。自然石に「青面金剛」と大きく刻み、上部に日月輪を配している。中央で二つに割れており、笹の茂みに埋もれている。高さ約一一〇cm。



七尾市小島町唐崎神社の三猿像

唐崎神社境内の鳩ヶ峰碑の前に、一石一尊の三猿像が並んでいる。丸彫りで、向かって左から両手で口を・両手で耳を・両手で目を塞いでいる。



七尾市藤橋町の青面金剛像

路傍のコンクリートブロック製の小堂に、地蔵や観音と共に納められている。一般的な一面六手の青面金剛像で、脚下に一体の邪鬼を踏みつけ、両脇に童子を従える。猿は彫られていないようだが、二体の鶏が彫られているように見える。花岡岩製で高さ六三cm。



七尾市八田垣内の青面金剛像

路傍の木造の小堂内に、地蔵などと共に納められている。青面金剛一面六手像である。上の両手には日月輪を掲げているようであるが、他の四手の持物ははっきりとしない。邪鬼や童子などは彫られていないが、三猿が彫られている。丸彫りに近い厚肉彫りである。高さ六五cm。



七尾市多根町桜井家の青面金剛像

桜井家前庭の、木造の小堂内に納められている。一般的によくみられる青面金剛一面六手像である。脚下に一体の邪鬼を踏



みつけ、両脇に童子を従えている。上部に日月輪を配し、下部には三猿が彫られている。猿は向かって左から両手で目を・両手で耳を・両手で口を塞いでいる。形態は氷見市でもよくみられる駒型で、高さは四四 cm である。

七尾市三引町赤倉神社の三猿像

赤倉神社境内の大杉の根元に置かれている。一石一尊の三猿像で、各々が石の台座に乗せられている。向かって左から順に、片手で口を・両手で耳を・両手で目を塞いでいる。



中能登町良川山田寺の青面金剛像

高野山真言宗山田寺境内の木造の堂内に、西国三十三ヶ所観音などと

共に青面金剛像が納められている。一面六手像で、持物は一般的なものとほぼ同じであるが、通常は輪宝を持つところが幢(とう)を持つようだ。頭部には火焰を伴う輪後光が彫られており、脚下に邪鬼を踏みつけ、両脇には童子を従える。



下部には三猿と二鶏が彫られている。猿は向かって左からそれぞれ口・耳・目を塞いでいる。またこの像は、四体の夜叉が彫られた台石に乗せられている。四体の夜叉が彫られている庚申塔は、石川県内では他に例をみない。本体の高さ一四〇 cm で、台石の高さは三〇 cm。

中能登町春木の庚申塔

春木集落入り口路傍の庚申塚と称される一角に建てられている。前面を少し平らに加工した自然石に「ウーン・南無青面金剛」と刻まれている。高さ一〇〇 cm。

中能登町黒氏の青面金剛像

路傍の木造の小堂内に納められている。青面金剛一面六手像で、持物は一般的にみられるものである。上部に日月輪を配し、頭部には輪後光が彫られている。脚下に邪鬼を踏みつけ、両脇に童子を従える。猿や鶏などは彫られていない。高さ四九 cm。

中能登町石動山の庚申塔

石動山から七尾市多根へと向かう旧道沿いに建てられている。自然石の前面を平らに加工して、上部に「ウーン」の種子を刻み円相で囲んでいる。その下に「庚申供養塔」と刻まれている。銘文などは入っていないようである。



志賀町高浜西之宮神社の青面金剛像

西之宮神社の境内のコンクリートブロック製の小堂に納められている。中能登方面にみられる最も一般的な青面金剛像で、脚下には一体の邪鬼を踏みつけ、両脇に童子を従えている。下部に三猿が彫られている。向かって左からそれぞれ目・口・耳を塞いでいるようだ。花崗岩製で高さ六〇cm。



羽咋市酒井町永光寺参道の庚申塔

曹洞宗永光寺の参道脇に建てられている。自然石の前面を平らに加工し「庚申塔」と刻み、その下に「上州■ 大久保■」の銘が入っている。石を積み上げた立派な基壇に乗せられている。高さ九八cm。



津幡町俱利伽羅不動寺の三猿像

高野山真言宗俱利伽羅不動寺入り口の堂内の、不動明王の足元に置かれている。一石一尊の三猿像で、石膏製のように、彩色されている。



津幡町能瀬日吉山王社の三猿像

日吉山王社境内のコンクリート製の小堂内に納められている。一石一尊の丸彫り三猿像である。猿は山王の使者とされているが、この猿像は見ざる・言わざる・聞かざるの三猿形式をとっている。庚申塔として扱った。三体共に高さ約四〇cm。向って左から両手で目を・両手で口を・両手で耳を塞いでいる。百メートルほど離れた領家の富士神社にも、近年三猿像が作られている。



金沢市直江野町妙照寺の三猿像

日蓮宗妙照寺境内の木造の小堂内に浄行菩薩が納められており、その右後方に置かれている。一石三尊の三猿像であるが、ほぼ丸彫りに近い形に造られている。猿は向かって左から両手で目を・両手で口を・両手で耳を塞いでいる。台座に「奉納善根主／瀬戸義雄／小山静／平成三年十月三日」の銘が入っている。この像の背後には「帝祥天王 護法善神」と書かれた札が掛けられている。高さ一〇七cmで、像高は各二四cm。



金沢市小橋町円祐寺の三猿像

法華宗真門流円祐寺境内に小堂が建てられており、三猿像が祀られている。



金沢市山の上町善導寺の三猿像

浄土宗善導寺境内の地藏堂内に、三猿像が置かれている。丸彫りの一石三尊像である。向って左から両手で口を・両手で目を・両手で耳を塞いでいる。



金沢市東山二丁目真成寺境内の三猿像

日蓮宗真成寺の本堂前に十体ほどの猿像が置かれている。一石三尊像や単体の猿像などがみられるが、破損や磨滅したものが多い。

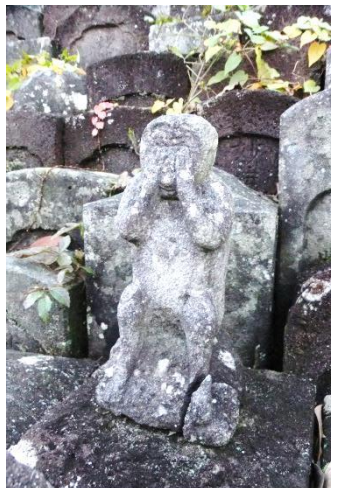


金沢市東山二丁目真成寺本堂の三猿像

真成寺本堂内の左手にも、数多くの猿像が並んでいる。他の奉納物なども置かれており、現在でも厚い信仰があることがうかがえる。

金沢市東山二丁目妙国寺墓地の猿像

日蓮宗妙国寺墓地の無縁墓標群内に、一体の猿像が置かれている。丸彫りで、両手で目を塞いでいる。この猿像は見ざる・言わざる・聞かざるの三猿形式の一体であり、庚申の猿と考えられるのだが、他の二体が不明である。



金沢市末広町卯辰山の庚申堂跡記念碑

卯辰山玉兎ヶ丘には、幕末頃に庚申堂が建てられていた。庚申堂は明治、野町三丁目で再建されたが、昭和十年頃に取り壊されて現在では面影もみられない。兎ヶ丘の記念碑は、「庚」「申」「塚」と書かれた三枚の陶板を自然石にはめ込んでいる。



金沢市堀川新町久昌寺の庚申塔

曹洞宗久昌寺の境内に、小型の円盤状の石塔が建てられている。中央に「大辯財尊天」と刻み、その右に「庚申青面金剛」、左には「稲荷大明神」と刻まれている。



金沢市堀川新町久昌寺の青面金剛像

境内の地藏堂には、赤戸室石製の立派な六地藏が納められている。その右手にも多くの地藏などが納められており、青面金剛像が一体みられる。舟光背型で、一般的によくみられる一面六手像を浮彫りしている。天明六年の銘がある。



金沢市長坂町燈明寺の青面金剛像

境内には数体の石仏が並んでいるが、いちばん右が青面金剛像である。舟光背型で、一般的によくみられる一面六手像を浮彫りしている。上部に日月輪を配し、頭部に火焰を伴う輪後光が彫られ、脚下には一邪鬼面を踏みつけている。猿や鶏などは彫られていない。



金沢市寺町五丁目極楽寺の青面金剛像

浄土宗極楽寺の墓地入り口にコンクリート製の堂が建てられており、地藏などの石仏が納められている。その中に青面金剛像が一体みられる。舟光背型で、一般的によくみられる一面六手像を浮彫りしている。上部に日月輪を配し、頭部に火焰を伴う輪後光が彫られ、脚下には二体の邪鬼を踏みつけている。その下に



は三猿が彫られており、向かって左から両手で口を・両手で耳を・両手で目を塞いでいる。

小松市那谷町那谷寺の青面金剛像

高野山真言宗那谷寺の境内に立っている。青面金剛一面四手丸彫り像である。右上手に剣を、左上手には珠を持っているが、下の二手の持物ははっきりとしない。台石が邪鬼となっており、小さく三猿と二鶏が彫られている。高さ約一六〇cm。この像の前に建てられている灯籠の竿に、「萬延元庚申九月」の銘があるので、その時かあるいはそれ以前に作られたと考えられる。像の前には「縁結の神 庚申像」の札が立てられている。



加賀市大聖寺地方町明王寺の青面金剛像

真言宗智山派明王寺境内に庚申堂が建てられており、一面二手丸彫りの青面金剛像が納められている。三眼像で、右手に剣を、左手に人身を持ち、脚下に一体の邪鬼を踏みつけている。背面に「宝暦二年／石佛師／越前福井／内田正之建之」の銘が入っている。高さ一八五cm。堂内には猿像の絵馬など多くの奉納物が掲げられている。



石川県県庚申塔一覽

型 A：角柱型 B：笠付角柱型 C：角板型 D：笠付円盤型 E：光背型
 F：駒型 G：割石および前面加工 H：自然石 I：その他
 堂 ○は木造の堂、□は木造以外の堂に納められている。

調査報告者 滝本やすし(金沢市) 池田紀子(金沢市)

住所	所在地	主尊(主文)	型	日	鬼	子	奴	猿	鶏	年号	西暦	堂	備考
珠洲市	三崎町森腰	雁の池湖畔	「奉請庚申塔」	H	-	-	-	-	-				
	若山町宗末	岡田家墓地	「庚申塚」	A	-	-	-	-	-	明治14	1881		
	若山町洲巻	高野家裏山	「庚申之塚」	G	-	-	-	-	-				九社前家より移動
	宝立町春日野	法住寺参道	1「ウーン・南無青面金剛塔」	B	-	-	-	-	-	天保9	1838		
	同	同 門前	2「ウーン・青面金剛塔」	A	-	-	-	-	-	文政10	1827		
能登町	秋吉	山下家	「ウーン・庚申青面金剛」	A	-	-	-	-	-	天保14	1843		
	時長十八束	共同墓地	「庚申」	A	-	-	-	-	-	文政11	1828		
	一ノ瀬	川端家	青面金剛 1面6手	E	有	1	2	0	0	0			□
	宮犬		「ウーン・奉待庚申供養塔」	A	-	-	-	-	+	文化11	1814		未確認
	柿生神道	路傍	「ユ・庚申」	G	-	-	-	-	2	-			
	瑞穂町	路傍	「庚申」	G	-	-	-	-	-				
	瑞穂西安寺	最安寺	「庚申」	G	-	-	-	-	-	嘉永5	1852		
	瑞穂院内	大峰神社境内	「ユ・庚申」	G	-	-	-	-	?	嘉永7	1854		
	瑞穂柱山	地藏堂	「ユ・庚申」	G	-	-	-	-	-	安政			
	本木亀原	平川家	「ユ・庚申」	G	-	-	-	-	2	-			○
	高内島		「庚申」										現存しない
輪島市	門前町俊兼	路傍	3猿?	H	-	-	-	-	3?	-			○
	門前町日野尾	路傍	「庚申」	H	-	-	-	-	-				
	門前町門前	路傍	「庚申」	H	-	-	-	-	-				
	門前町鬼屋	路傍	「庚申」	H	-	-	-	-	-	明治14	1881		地震で倒壊破損
	門前町道下	路傍	「ウーン・庚申塔」	H	-	-	-	-	-				
穴水町	川島町	路傍	石祠	I									
七尾市	小島町	長齢寺	「青面金剛」	G	有	-	-	-	-				
	小島町	唐崎神社境内	3猿	I	-	-	-	-	-				
	藤橋町	路傍	青面金剛 1面6手	E	無	1	2	0	0	2?			□
	八田垣内谷	路傍	青面金剛 1面6手	E	掌	0	0	0	3	0			○
	多根	桜井家	青面金剛 1面6手	F	有	1	2	0	3	0			○
	三引町	赤倉神社境内	3猿	I	-	-	-	-	3	-			
中能登町	良川	山田寺境内	青面金剛 1面6手	E	有	1	2	4	3	2			○
	春木	路傍	「ウーン・南無青面金剛」	G	-	-	-	-	-				
	黒氏	路傍	青面金剛 1面6手	E	有	1	2	0	0	0			○
	石動山	路傍	「ウーン・庚申供養塔」	H	-	-	-	-	-				
志賀町	高浜町	西之宮神社境内	青面金剛 1面6手	E	無	1	2	0	3	0			○
羽咋市	酒井町	永光寺参道	「庚申塔」	G	-	-	-	-	-				
津幡町	俱利伽羅	俱利伽羅不動寺		I	-	-	-	-	3	-			○
	能瀬	日吉山王社境内	3猿	I	-	-	-	-	3	-			○
	領家	富士神社境内	3猿	I	-	-	-	-	3	-	平成9	1997	□
金沢市	直江野町	妙照寺境内	3猿	I	-	-	-	-	3	-	平成3	1991	○
	小橋町	圓祐寺境内	3猿	I	-	-	-	-	3	-			○
	山の上町	善導寺	3猿	I	-	-	-	-	3	-			□
	東山2丁目	真成寺境内	1 3猿等 多数あり	I	-	-	-	-	多	-			
	同	同 本堂	2 3猿等 多数あり	I	-	-	-	-	多	-			○
	東山2丁目	妙国寺墓地	1猿	I	-	-	-	-	1	-			3猿の1体

	末広町	卯辰山玉兔ヶ丘	「庚申塚」	I	-	-	-	-	-	-				庚申堂跡記念碑
	堀川新町	久昌寺境内	1 「庚申青面金剛・大辯戩尊天・稲荷大明神」	I	-	-	-	-	-	-				
	同	同 同	2 青面金剛 1面6手	E	有	1	0	0	0	0	天明6	1786	○	
	長坂町	燈明寺境内	青面金剛 1面6手	E	有	0	0	0	0	0				
	寺町5丁目	極楽寺境内	青面金剛 1面6手	E	有	1	0	0	3	0			□	
小松市	那谷町	那谷寺境内	青面金剛 1面4手丸彫	I	無	1	0	0	3	2				
加賀市	大聖寺地方町	明王寺境内	青面金剛 1面2手丸彫	I	無	0	0	0	0	0	宝暦2	1752	○	



金沢市寺町五丁目西方寺の木造青面金剛一面六手像